

学会発表渡航支援報告書

(ふりがな) 氏 名	ふくうら かずお 福浦 一男	所属・職名 京都大学大学院文学研究科非常勤講師
e-mail		
発表題名 (英語)	The Community of Spirit Possession: Religious Practices of a Grouping of Spirit Mediums that Worships the Tutelary Spirit of City Pillar in Chiang Mai, Northern Thailand	
著者名	Kazuo Fukuura	
会議名 (英語)	Seminar: 'Communities of Becoming' in Mainland South East Asia	
開催地(国、市)	Chiang Mai, Thailand	
参加期間	2010年 3月 6日 ~ 3月 7日	

“Communities of Becoming’ in Mainland South East Asia” (「東南アジア大陸部における生成的コミュニティ」) と銘打たれた本セミナーは、タイ王国北部地方の古都チェンマイのチェンマイ大学社会科学部において、2010年3月6日から7日の2日間開催された。セミナーの主催者は、国立民族学博物館の田邊繁治名誉教授である。日本とタイから先鋭の社会学者及び人類学者が集い、12名の発表者による発表および6名のコメンテーターによるコメントを伴うプログラムを2日間でインテンシブに行った。本セミナーの目的は、今日のグローバル化とモダニティの深化の中で、東南アジアにおける新しいタイプのコミュニティの出現とそれらの特徴づける協働性と社会性の実態を記述し、そこに貫流する人びとの欲望、ニーズや想像力が彼らの現在と未来における新たな生の様式を生成していく動態を探求することである。



他の報告者の報告は、「生成的コミュニティ」という表現の通り、非常に多岐に渡るものとなった。報告テーマの一部を挙げると、カンボジアのクメール・ルージュ裁判に関するもの、東北タイの儀礼とアイデンティティの変容に関するもの、東北タイのベトナム系タイ人コミュニティに関するもの、北タイの観光空間に関する研究などであった。これらの多様かつ豊かな研究によって、タイを中心とする、東南アジア大陸部における新たなコミュニティの生成とその意義・重要性が共有されることとなった。

このような多彩な生成コミュニティのひとつとして、報告者は、北タイ、チェンマイの基柱と呼ばれる儀礼的象徴とその守護精霊を崇拝する霊媒集団とその宗教実践に関する発表を行った。チェンマイの宗教的伝統である精霊崇拝の流れを汲む霊媒たちは、この守護精霊に纏わる数々の儀礼を主軸に据えながら、各種の集団精霊憑依儀礼を組織し、時には新たな儀礼を創造することさえある。一連の宗教実践を通じて、彼らは霊媒コミュニティを形成しながら、ひとつのネットワークを成立せしめている。このようなチェンマイの霊媒集団による宗教実践を、民衆文化による独自の親密圏



**学会発表渡航支援報告書**

形成として理解することが可能である。

質疑応答では、あまり言及されることがない霊媒集団とその儀礼という現象に注目が集まった。多方面からの活発な議論が繰り広げられ、霊媒集団の儀礼的な「遂行力 (performativity)」に関わる新たな知見を得ることができた。今回、この発表を通して貴重な意見交換をすることができたので、当日行われた議論を基に、本発表の内容を英語論文として、発表することにしたい。